

菊池 第4回 ビエンナーレ

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。

菊池ビエンナーレは、現代陶芸の振興を目的に 2004 年度から隔年で開催している陶芸の公募展です。当館は現代陶芸の紹介を主として活動を展開しており、菊池ビエンナーレはその主軸を担う事業と考えております。

第4回となる今回は、日本全国から総数 423 点のご応募をいただきました。第1次、第2次の審査を行い選出いたしました、入賞 7 点を含む入選作 49 点を本展でご紹介いたします。

作家それぞれの感性と技術が結晶した作品は、形体、質感ともにバラエティーに富み、見応えがあります。この多彩な作品群を通し、日本における現代陶芸の「今」とその魅力をご堪能下さい。

なお、今後も隔年での開催を予定しておりますが、公募の趣旨をさらに多くの方々にご理解いただけるよう尽力し、現代日本陶芸の優れた作品を広くご紹介させていただく所存でございます。大いにご期待いただくとともにご協力くださいますようお願い申し上げます。

つきましては展覧会および作家について概略をご案内申し上げます。当ビエンナーレをひとりでも多くの皆さまにお知らせいただき、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

—展覧会概要—

展覧会名	第4回菊池ビエンナーレ展 —現代陶芸の〈今〉—
会期	2011 年 4 月 2 日（土）～6 月 26 日（日）
休館	毎週月曜日
会場	菊池寛実記念 智美術館 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル TEL03-5733-5131
観覧料	一般 500 円 / 大学生 300 円 / 小中高生 100 円 ※障害者手帳をご提示の方、およびその介護者 1 名は無料となります。
主催	財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社

—関連行事—

■研究会■

パネリストを中心に、ご来場いただいた作家の皆様にもご参加いただきながら、意見交換の場として研究会を開催いたします。一般のお客様も是非ご参加、ご聴講ください。

◆第1回 4月30日(土) 15時～ 当館展示室にて

パネリスト：＜受賞者＞岡田裕氏（大賞）、中村伸子氏（優秀賞）

＜審査員＞金子賢治氏（茨城県陶芸美術館館長）、林屋晴三（当館館長）

＜ゲスト＞唐澤昌宏氏（東京国立近代美術館工芸課長）

◆第2回 5月7日(土) 15時～ 当館展示室にて

パネリスト：＜受賞者＞五味謙二氏（奨励賞）、今野朋子氏（奨励賞）、崎山隆之氏（奨励賞）

山口美智江氏（奨励賞）、吉川周而氏（奨励賞） ＜五十音順＞

＜審査員＞金子賢治氏（茨城県陶芸美術館館長）、林屋晴三（当館館長）

■講演会■ 5月28日(土) 15時～ 当館展示室にて

「日本のやきもの・海外のやきもの—海外の公募展・企画展からみる傾向と特徴、日本との比較—」

講師：外館和子氏（美術評論家・美術史家）

●学芸員によるギャラリー・トーク：各日午後2時より

4月9日(土)、16日(土)、23日(土)／5月21日(土)／6月4日(土)、11日(土)

●西洋館見学会：各日午後2時より（予約制・定員20名）

5月14日(土)、6月18日(土)

■入選者一覧（奨励賞以下五十音順）■

No.	結果	氏名	フリガナ	在住地	タイトル
1	大賞	岡田 裕	オカダ ユウ	山口県	炎彩花器
2	優秀賞	中村 伸子	ナカムラ ノブコ	福岡県	花の大地
3	奨励賞	五味 謙二	ゴミ ケンジ	岐阜県	彩土器
4	奨励賞	今野 朋子	コンノ トモコ	愛知県	Creature
5	奨励賞	崎山 隆之	サキヤマ タカユキ	静岡県	扁壺「聴涛」
6	奨励賞	山口 美智江	ヤマグチ ミチエ	愛知県	夢—幻—
7	奨励賞	吉川 周而	ヨシカワ シュウジ	兵庫県	四つが形作る形
8	入選	飯沼 耕市	イイヌマ コウイチ	茨城県	銀彩四角鉢
9	入選	猪倉 高志	イクラ タカシ	岐阜県	かげを纏うかたち
10	入選	石山 哲也	イシヤマ テツヤ	滋賀県	象嵌泥彩長方皿
11	入選	市野 雅彦	イチノ マサヒコ	兵庫県	誕生—Reborn—

12	入選	伊藤 みちよ	イトウ ミチヨ	千葉県	隠処の風
13	入選	伊藤 雄志	イトウ ユウシ	愛知県	塩釉練込角鉢
14	入選	今泉 毅	イマイズミ タケシ	埼玉県	黒彩ノ器—弦月—
15	入選	梅本 依里	ウメモト エリ	大阪府	もしも時間VI
16	入選	大浦 加和	オオウラ カナ	福岡県	泥彩鉢
17	入選	大西 先	オオニシ ハジメ	愛媛県	青磁線文花器
18	入選	岡田 優	オカダ マサル	京都府	白釉稜線鉢
19	入選	岡田 泰	オカダ ヤスシ	山口県	淡青釉鉢
20	入選	鬼丸 尚幸	オニマル タカユキ	福岡県	青白磁面取鉢
21	入選	加藤 重美	カトウ シゲミ	山口県	絢
22	入選	神田 和弘	カンダ カズヒロ	鹿児島県	集
23	入選	神田 樹里	カンダ ジュリ	鹿児島県	行方
24	入選	岸 映子	キシ エイコ	京都府	彩石象嵌 能舞 2010
25	入選	桑田 卓郎	クワタ タクロウ	岐阜県	芬芬
26	入選	澤田 勇人	サワダ ハヤト	茨城県	赫跡器
27	入選	茂田 真史	シゲタ マサフミ	千葉県	白磁鉢
28	入選	高垣 篤	タカガキ アツシ	神奈川県	茜青瓷—相象
29	入選	高田 美智子	タカダ ミチコ	京都府	fuwaa
30	入選	高森 誠司	タカモリ セイジ	佐賀県	青白磁釉彩文鉢
31	入選	武腰 潤	タケゴシ ジュン	石川県	テーブルウェア「川蟬の風景」
32	入選	竹之内 琢	タケノウチ タク	鹿児島県	半月器
33	入選	田中 光謙	タナカ コウケン	福岡県	青瓷黒輪波紋盤
34	入選	月岡 三郎	ツキオカ サブロウ	島根県	練上剝抜燻焼水指
35	入選	都丸 篤子	トマル アツコ	神奈川県	Velvet Skin
36	入選	中田 雅巳	ナカダ マサル	石川県	LINE
37	入選	中村 清吾	ナカムラ セイゴ	佐賀県	白磁鉢
38	入選	新里 明士	ニイサト アキオ	岐阜県	光器
39	入選	西田 宣生	ニシダ ノブオ	高知県	碧の器～流～
40	入選	西本 直文	ニシモト ナオフミ	広島県	玄生—「祈りの中に」
41	入選	服部 百合子	ハットリ ユリコ	兵庫県	Yの響
42	入選	昼馬 和代	ヒルマ カズヨ	大阪府	飛翔
43	入選	藤笠 砂都子	フジカサ サトコ	東京都	Flow
44	入選	古家 郁子	フルヤ イクコ	神奈川県	風が吹いて
45	入選	前田 正博	マエダ マサヒロ	東京都	色絵金銀彩鉢
46	入選	松尾 無蔵	マツオ ムゾウ	福岡県	古代釉条文花器
47	入選	美崎 光邦	ミサキ ミツクニ	千葉県	彩泥鉢
48	入選	森谷 真弓	モリタニ マユミ	和歌山県	菱
49	入選	和田 的	ワダ アキラ	千葉県	それぞれ

■審査員（敬称略）

審査委員長 菊池智（当財団理事長）

乾由明（兵庫陶芸美術館館長）、金子賢治（茨城県陶芸美術館館長）

栗木達介（陶芸作家）、鈴木藏（陶芸作家）、林屋晴三（当館館長）

■審査日程

第1次写真審査 2010年10月27日（水）

第2次作品審査 2010年12月8日（水）

■応募総数および、選考結果

応募総数 423名

一次通過 115名

入選 49名（入賞7名）

■受賞作品 選評（大賞・優秀賞）■

◆大賞 岡田裕「炎彩花器」

萩焼の伝統的な技法を踏まえ、長年にわたって窯変に挑み、さらに「炎彩」と名付けた美的表現に取り組んで十年、かなりの成果を挙げたのが今回の受賞作である。

従来行われていたいわゆる窯変は、釉薬が薪の炎によって変化したものであったが、炎彩はそうではない。まず、萩の胎土を泥状にしたものをスプレーで掛け、淡いぼかしを生じさせる。そこに藁灰釉を点じて白い斑文の景色を加え、さらに口部から内外側にかけて、鉄分の多い見島の土に黒呉須を混ぜた長石の混合釉を掛けて、黒雲のような釉彩を生じさせた。器表全面に大らかで雅味のある装飾的な景色を表したのであり、作者はそれを炎彩と名付けた。聞くと窯変の偶然性とは違い、この炎彩によって作為的な加飾が可能となったのであった。もちろん形体と加飾の調和こそが鑑賞の焦点となることは言うまでもないが。

（林屋 晴三）

◆優秀賞 中村伸子「花の大地」

基本になる球体に、薄く叩きのぼした土の小さな板を貼り付け、花びらのような形を表している。その並べ方の独特のスタイルが、あたかも今芽吹きつつあるような、動きを感じさせる。畑の中での野焼きによるというが、その際に生じた炭化の色感、質感が、花形、大地というような作者の個人的なストーリーを超えて、一個の造形物、陶の造形としての存在感を持たせている。

作者は福岡県展、九州山口陶磁展などで受賞し、力をつけてきたが、前述の色感、質感と共鳴し合う、寡黙でシンプルな形態感覚が特徴であった。それが最近、この作品にみられるように少し動きだした。それがまた文字通り、その「華」のある寡黙さをもたらした。

（金子 賢治）

※入賞作の選評は、展覧会図録に掲載いたします。奨励賞の選評については、お問い合わせください。

受賞作品/受賞者



大賞：岡田 裕 《炎彩花器》

1946年生まれ（山口県萩市在住）

主な経歴：日本伝統工芸展入選、日本陶芸展入選、山口県文化振興奨励賞、山口県文化功労賞、芸術文化功労山口県選奨、山口県指定無形文化財認定、第3回菊池ビエンナーレ入選、「智美術館大賞展—現代の茶—造形の自由」出品、日本工芸会理事



優秀賞：中村 伸子 《花の大地》

1945年生まれ（福岡県粕屋郡宇美町在住）

主な経歴：日工会展日工会賞・読売テレビ賞、日展入選、日本陶芸展入選、九州山口陶磁展100回記念賞・毎日新聞社賞、朝日陶芸展入選、第2回・3回菊池ビエンナーレ入選、西日本陶芸展鹿児島県知事賞、他



左 奨励賞：五味 謙二 《彩土器》

1978年生まれ（岐阜県土岐市在住）

主な経歴：早稲田大学人間科学部卒業、沖縄壺屋にて修業、現代沖縄陶芸展優秀賞、益子陶芸展審査員特別賞、第21回日本陶芸展 準大賞・日本工芸会賞

右 奨励賞：今野 朋子 《Creature》

1967年生まれ（愛知県常滑市在住）

主な経歴：香港でテレンス・リー、ジョンソン・ツァンに陶芸を学ぶ、ジョンソン・ツァンのアシスタントを務める、女流陶芸展京都市長賞、韓国京畿道世界陶磁ビエンナーレ・ワークショップ参加、長三賞現代陶芸展奨励賞



奨励賞：崎山 隆之 《扁壺「聴涛」》

1958年生まれ（静岡県西伊豆町在住）主な経歴（09年以降）：富嶽ビエンナーレ佳作（静岡県立美術館）、静岡県文化奨励賞、21世紀展（東京美術倶楽部）、デザイン マイアミ（パーゼル）、SOFA（サンタフェ）、「智美術館大賞展—現代の茶—造形の自由」出品、他



奨励賞：山口 美智江 《夢想—幻—》

1964年生まれ

（愛知県名古屋市中区在住）

主な経歴：日本新工芸展奨励賞、日展入選、日本陶芸展入選、神戸ビエンナーレ 2009 現代陶芸展奨励賞、長三賞現代陶芸展入選、女流陶芸展 T氏賞



奨励賞：吉川 周而 《四つが形作る形》

1947年生まれ（兵庫県三田市在住）

主な経歴：京都市立芸術大学陶磁器科卒業、第7回国際陶磁器展美濃グランプリ、(08年以降) TAIWAN Ceramics Biennale 2008 審査員賞、日本陶芸展賞候補、個展（西脇市岡之山美術館）、ひょうごゆかりの美術家展（兵庫県立美術館王子分館）、他

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。

お問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館 (担当: 島崎・花里・高田)

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX: 03-5733-5132

●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

●画像貸出リスト※キャプションには作者・作品名と制作年を入れてください。サイズの単位はcmです。

希望作品に☑	作品キャプション		
☐	① 大 賞: 岡田 裕	「炎彩花器」	h. 29.3×43.0×43.0
☐	② 優秀賞: 中村 伸子	「花の大地」	h. 44.0×43.0×43.0
☐	③ 奨励賞: 五味 謙二	「彩土器」	h. 49.0×34.0×28.8
☐	④ 奨励賞: 今野 朋子	「Creature」	h. 53.5×51.6×19.6
☐	⑤ 奨励賞: 崎山 隆之	「扁壺『聴涛』」	h. 35.0×49.0×35.3
☐	⑥ 奨励賞: 山口 美智江	「夢想一幻一」	h. 40.0×51.5×47.2
☐	⑦ 奨励賞: 吉川 周而	「四つが形作る形」	h. 25.0×47.2×67.3

●読者プレゼント用チケット希望: ☐5組 10名様 ☐10組 20名様

智美術館 2011年度 展覧会スケジュール

第4回菊池ビエンナーレ展 4月2日(土)～6月26日(日)

菊池ビエンナーレは、陶芸の振興を目的に、2004年度から隔年で開催している現代陶芸の公募展です。第4回を迎える今回は、応募総数423点の中より、入賞作7点を含む入選作49点を選出いたしました。日本における陶芸の「今」をご覧ください。

大賞 岡田裕「炎彩花器」



川瀬 忍の青磁展 <仮称> 7月9日(土)～9月25日(日) <予定>

現代における青磁の第一人者、川瀬忍氏の美術館での初めての個展です。神品とも称される中国・宋代の官窯青磁に魅了され研鑽を積んだ川瀬氏（昭和25年生）の作品は、釉調の美しさや、端正な形の中に独自の品格が漂い、現代の青磁として高い評価を得てきました。新旧作を一堂に展覧いたします。

川瀬忍「白青磁」



細川 護熙展 <仮称> 10月9日(日)～ 2012年1月9日(月・祝) <予定>

2001年の初個展以来、03年パリ、07年のN.Y.での個展と、細川護熙氏（昭和13年生）の陶芸、書画作品は、国内外で高い評価を得ています。昨年の銀座・メゾンエルメスでの「市井の山居」展においても油彩画を含めたインスタレーションが話題を呼びました。このたびのテーマは「胸中の山水」です。水墨の世界を油彩であらわすというユニークな試みによる新作絵画を中心に、書、陶芸の作品をまじえ、展示室に細川氏の心の美の世界をあらわします。

金重 有邦展 <仮称> 1月21日(土)～3月31日(土) <予定>

金重有邦氏（昭和25年生）は、備前を代表する陶芸家である金重陶陽を伯父に、同じく金重素山を父に持ち、伝統を尊重しながらも両者とは異なる自らの備前焼を探究してきました。素朴でありながら、どこか飄逸とした氏の作品は、これまでの備前焼にない軽やかで洒脱な印象を与えます。是非ご覧ください。

金重有邦「伊部花器」

